

シカの相撲遊び？



シカの相撲？

この季節は、繁殖期も終わっているのですが、砂浴びをしているシカに別のシカがちょっかいを出して相撲が始まります(写真下)。若い雄たちは、秋から始まる繁殖期に備えて練習をしているのか？ただじゃれて遊んでいるのか？わからないですが、角どうしをカツカツと大きな音をたててファーファと鳴き声とも呼吸音とも区別のつかない音を出して相撲を取っています。

この場所は、いつも相撲に使う場所なのか、落ち葉や枯れ枝もなく、さながら「土俵」のようになっています。これは、恒常的に、この場所を使っていると思われれます。戦いを挑まれたシカも逃げることなく応じていることから、遊び行動だと思います。



砂浴びをしている2~3歳のシカに1~2歳の若いシカがちょっかいを出している。



砂浴びをしていたシカも、仕方なく立ち上がり、相手をする様子が見られました。

シカの群れは？

一般に「群れ」と言うと、強い雄を頂点に序列のある集団と思われますが、シカの場合、雄の集団、子育てをする雌の集団に分かれて暮らしています。雄の集団は、9月～10月に始まる繁殖期に解散し、周りの雄と争いながら強い雄は自分のテリトリーを広げて、その中に雌を囲い込みます。この時、テリトリーを確保できなかった雄シカは、周りをうろつくだけになります。時に、強い雄のテリトリーに侵入を試みますが、追い払われることとなります。しかし、冬になってエサが不足すると、たくさんのシカが1ヶ所に集まることがあります。これは、秋の繁殖期に雄のテリトリーに支配された複数の集団が、エサ条件の良い場所を求めて1箇所に集まったからだと考えられています。



↑ 母親と子供の雌集団



↑ 春に角が落ち、新しい角(袋角)が生え始め

春になり、草木の新芽が美味しくなるころは、それぞれの夏場の生息地に移動を始めます。雌は母親と子供の集団、時には、他のグループの雌を交えて、母系集団として初夏の出産に備えます。

雄も雄の集団を作り、1歳～2歳の雄も母系集団から出て雄の集団に参加します。9月になると、この雄の集団は解散して、互いに、角を突き合わせる戦いの季節になり繁殖活動がスタートします。

10月頃になると、テリトリーを獲得した雄は、「ピー」と甲高く鳴いて、自分の存在を誇示します。

あきる野のように林内で生活するシカは大きな集団を作らない為、2～6頭位の小集団で生活しています。

越冬時も、この小集団が維持されるパターンが多いように感じます。前頁のシカの相撲も1月の画像ですが、雄集団での行動のように見えます。



○シカの角
夏に袋角が取れると、秋の繁殖期に備えて角研ぎが始まります。特にヒノキの小径木が気に入っているようで左の写真のように角で樹皮が剥かれます。

この角研ぎは、夏場の生息地と考えています。

↑ ○角研ぎ

あきる野でのシカの被害としては、この角研ぎが林業被害として上げられます。

時には、大径木のヒノキも被害にあっており、材価を損なう被害となっています。

市内のシカ分布は、小集団で広範囲に拡散しているため、なかなか実態が把握できないのが現状です。



↑ まだ袋角が残っているが強そうな雄シカ